

# Social

## 社会

## 社会への取り組み

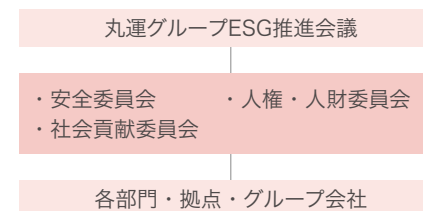
### 基本的な考え方

丸運グループは、安全・品質の向上に取り組みます。また、人権尊重を基本とし、多様な人材が各人の能力を発揮できるダイバーシティの構築と、積極的な社会貢献活動に取り組み、持続可能な社会の構築に貢献します。

### 推進体制 (2025年4月時点)




社会に関する取り組みを推進するために、全社を統括する「安全委員会」「社会貢献委員会」「人権・人財委員会」を設けています。各委員会は年2回以上開催し、目標の達成状況を確認するとともに、全社的な方向性や目標・計画等を議論・改善し、その内容を丸運グループESG推進会議に報告しています。

また、ここでの決定事項をもとに各部門・拠点・グループ会社において具体的な取り組みを協議し、各活動へと展開していきます。



### 丸運グループ 最優先課題の長期目標

最優先課題について、長期目標を設定しています。2030年度の目標達成に向けて、グループ一体となって進めていきます。

最優先課題	長期目標 (2030年度)
 運輸安全の向上	重大事故 0件/年を達成する <sup>※1</sup>
 労働安全衛生の向上	労働災害 0件/年を達成する <sup>※2</sup>
 ダイバーシティの推進	女性採用比率 50%以上を維持する <sup>※3</sup> 女性キャリアパスを作成し 女性管理職の割合を10%以上に向上させる <sup>※3</sup> 障がい者法定雇用率 (2.5%) を維持・向上させる <sup>※3</sup>

※1 重大事故基準は、国土交通省制定の「自動車事故報告規則第二条」に該当

※2 労働災害基準は、丸運「安全マネジメント規則」に該当

※3 丸運単体の数値

Social 社会

## 安全に関する方針・目標

- 方針** 輸送、作業の安全を確保し、事故・災害を防止することで、お客さまに信頼される安全な物流サービスを提供します
- 目標** ● 重大事故0件/年 ● 労働災害0件/年  
(2024年度)

### 🚚 運輸安全の向上・労働安全衛生の向上

#### 運輸安全マネジメント

安全は物流の根幹であり社会的責任であると認識し、運輸安全マネジメントを徹底しています。法令遵守と安全文化の醸成を推進し、定期的な教育・訓練や評価を通じて事故防止に努め、PDCAサイクルにより安全性の継続的な向上を図っています。

#### 適切な運行管理の実施

運行管理は、ドライバーの労務管理や車両の運行状況の把握を通じて、安全運行を確保するための重要な取り組みです。

丸運グループでは、トラック全車両にデジタルタコグラフおよびドライブレコーダーを設置し、運転状況の可視化を図っています。また、今後は自動点呼システムを導入し、点呼業務の効率化に取り組んでいきます。



デジタルタコグラフ本体(下)と一体型のモニター(上)



ドライブレコーダーのモニター(バックカメラ)

#### 安全性優良事業所認定(Gマーク)の取得

公益社団法人全日本トラック協会が交通安全対策等の取り組みにおいて、一定基準をクリアした事業所を認定する「安全性優良事業所」認定(Gマーク)を取得しています。丸運グループ全体で51の車両事業所において取得・更新し、安全性の維持向上に取り組んでいます。



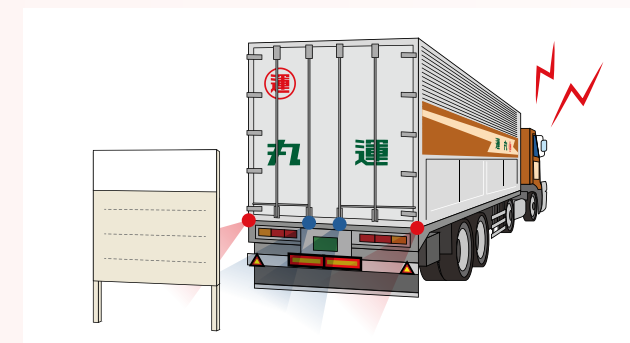
#### 安全パトロールの実施

安全な物流サービスを提供するため、安全パトロールを実施しています。安全活動や教育指導、運行管理等の帳票チェックと、現場の設備や作業の安全性を中心とした現場チェックを行うことで、物流業務全体の安全レベル向上を図っています。



#### 安全運転支援装置「バックセンサー」の導入

後退時の接触事故防止を目的として、2025年度より安全運転支援装置「バックセンサー」の全車両への導入を進めています。バックセンサーは、車両後方の障害物をセンサーで検知し、ドライバーに警告を発することで、後退時の事故リスクの低減とドライバーの負担軽減を図るものです。



#### 安全教育の実施(国土交通省告示第1366号)

ドライバーの安全意識を高め、交通事故の防止を図ることを目的として、国土交通省告示第1366号に基づく安全教育を継続的に実施しています。ドライバーの心構え、車両構造の理解、緊急時対応等を体系的に指導し、法令遵守と社会的責任の両立を目指しています。

## セーフティドライバーコンテスト

安全運転の意識向上と運転技術の向上を図るため、「セーフティドライバーコンテスト」を毎年開催しています。2024年度は、タンクローリーを使用し、11名のドライバーが参加しました。競技には、限られたスペースでの正確な操作が求められる「縦列駐車」と「後退車庫入れ」、左右にずれた障害物の間を通過することで空間認識力と操作精度を問う「オフセットアレー」、狭い通路をまっすぐに走行することで車両感覚とハンドル操作の安定性を試す「直線走行」、連続するパイロンの間を蛇行しながら走行することで車両の取り回し技術の評価する「スラローム走行」等が盛り込まれました。

今後も安全運転技能の向上と、安全作業のレベル向上に努めていきます。



コンテスト参加者集合写真



後退車庫入れの様子



直線走行の様子

## 安全会議の実施

安全方針の伝達や事故撲滅に向けた安全意識の統一を図るため、安全会議を実施しています。また、各事業所等での安全に関する課題や解決策の共有により、安全レベルの向上に取り組んでいます。

## ドライバーズミーティング

社長および経営幹部とドライバーとの直接対話を通して経営トップの安全意識を伝えることを目的とした、ドライバーズミーティングを実施しています。事故やヒヤリハット事例を通じて、意見交換や職場の課題共有等を行い、安全意識の統一を図っています。



丸運トランスポート東日本 鹿島支店 栃木営業所

## 事故防止月間

毎年4月と7月を事故防止月間とし、前年度の安全成績を踏まえた重点施策を展開しています。2024年度は、4月にドライブレコーダー映像を活用した運行状況確認・指導、構内パトロールによる作業状況確認・指導、後退時の下車確認と指導等を実施しました。また、7月には、熱中症の注意喚起と対策飲料の配布、作業の習熟度向上と安全運行の確保のための着車訓練やフォークリフト力量評価を実施しました。これらの継続的な活動を通じて、従業員の安全意識向上と労働災害ゼロを目指しています。

丸運グループ 4月7月  
事故防止月間 実施中

事故防止月間のぼり

## 無事故・無災害ウィークリー駆伝

丸運グループ全体が一丸となり、安全意識の高揚を図るための全員参加型安全活動として、2024年6月から2025年2月までの期間、「無事故・無災害ウィークリー駆伝」を展開しました。東西2ルートで指名された拠点が「区間走者」として毎週月曜日から日曜日までの7日間継続で「無事故・無災害」に取り組み、達成したら次の拠点に「たすき」をつなぎ、ゴールを目指しました。



ゴールイベント参加者集合写真(東扇島物流センター)



たすき返還

## SAS (睡眠時無呼吸症候群) スクリーニング検査の実施

丸運グループでは、全ドライバーを対象として3年毎にSASスクリーニング検査を実施しています。

SASとは、睡眠時の呼吸停止等により、質の良い睡眠が取れず、日に強い眠気や疲労等の自覚症状を伴う病気で、運転中に突然意識を失うような睡眠に陥ることもあります。SASは重大な事故につながる可能性があることから、SASの早期発見と健康起因事故の未然防止に取り組んでいます。

Social 社会

## 品質に関する方針・目標

方針  
目標  
(2024年度)

品質の維持・向上を図ることにより、お客さまに満足いただける、高い品質の物流サービスを提供します  
● 顧客満足度90%以上を達成 ● 物流サービスの品質向上

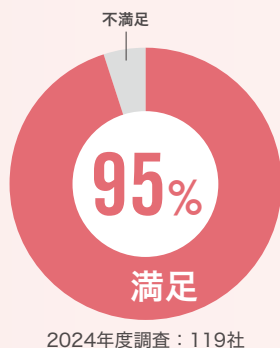
### 物流品質の向上

#### 顧客満足度の向上

丸運グループでは、お客さまに満足いただける『物流サービスの品質向上』を目指し、顧客満足度調査を実施しています。

物流サービスの品質向上とは、その継続性、信頼性等を高める活動であると認識しており、お客さまからのご要望や改善事項に対して、全社で取り組むことが重要であると考えています。

2024年度は満足度95%の評価をいただきました。今後も一つひとつの改善活動を継続することで、お客さまに満足いただける物流サービスの提供に努めていきます。



#### 「顧客満足度」ワッペン・シール

全従業員がワッペン・シールを装着し、顧客満足度向上への意思統一を図っています。「サービスの質」と「基本スタンス」の訴求するポイントを明示し、いつも顧客満足を意識した物流サービスの品質向上を目指しています。



#### 行動習慣化マネジメント研修 (BBS研修)

丸運グループでは、2023年度から「行動習慣化マネジメントBBS (Behavior Based Safety)」の考え方を取り入れた研修を実施しています。2024年度は「作業手順書における勘所の可視化トレーニング」として、安全に直結する重要なポイント (= 勘所) を、具体的な行動として言語化するトレーニングを行いました。これは、誰が見ても同じ作業ができる作業手順書の作成を目的としたものです。

研修は東京・名古屋・大阪の3拠点での対面とWEB参加のハイブリッド形式で行い、作業手順書の作成者約60名が受講しました。



東京会場の様子

VOICE

#### 参加者の声

- 「意識」ではなく、「行動」を変えることで、職場に安全を定着させることができるということを学んだ。
- 人間の意識は変えられない(変わっても継続できない)ので、行動に焦点をあてるのが大切であるということを変更して認識することができた。
- 今までの作業手順書の作り方で良いと考えていたが、その手順書の手順をもっと細分化しなければならない事に気づかされた。

#### 環境品質パトロール

2024年度は、拠点に対する監査項目を整理するとともに、環境品質パトロールの監査対象を明確化し、5S活動、顧客との取り決め、作業手順、設備保全等、各拠点の実情に即した改善活動の推進を目的として実施しました。

適正率は93%と、満足できる水準を達成していますが、今後も各拠点で実施される一つひとつの改善活動により、品質レベルの維持・向上を図ります。

#### 安全・品質月間

丸運グループでは、「運輸安全の向上」「労働安全衛生の向上」「顧客満足の向上」を目的として、11月を「安全・品質月間」と定め、全員参加型の活動を展開しました。

安全・品質講演会では、2024年度に実施した『行動習慣化マネジメント研修』の総括として、経営層を含めた幹部社員に対し、各現場で『安全に直結する具体的な行動の言語化』の教育指導を実施したことを報告しました。

また、以下の活動を通じて、丸運グループ全体で安全・品質への意識向上に取り組みました。

- トップメッセージの発信
- 安全・品質月間のぼりの掲揚
- 安全・品質パトロール「自主点検」
- 安全・品質eラーニング&クイズ
- 安全・品質講演会



安全・品質月間のぼり

Social 社会

## 人権・人財に関する方針・目標

方針  
目標  
(2024年度)

- 丸運グループは、人権尊重を基本とし、多様な人財が能力を発揮できるダイバーシティの推進と、多様な働き方ができる環境の構築に取り組みます
- ビジネスおよび職場の人権に関する個別テーマの理解を深める
  - ダイバーシティ推進に対する社員の理解と意識の醸成を促進するとともに、具体的施策につなげるための実態把握を行い、意識の定着および行動変革へとつなげていく



### ダイバーシティの推進

#### ダイバーシティの実現に向けた歩み

ダイバーシティに対する社員の理解と意識の醸成を促進するため、これまで制度整備や意識改革を含む多面的な施策に取り組んできました。2024年度はさらに具体的施策の立案に向けて実態把握を行うとともに、意識の定着を図り行動変革へとつなげていきました。

	これまでの主な取り組み (太字は2024年度)
組織風土・意識醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トップメッセージ等の関連情報発信 (社内誌)</li> <li>・基本研修、アンコンシャスバイアス研修の実施</li> </ul>
両立支援 (制度・職場環境)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児・介護休業制度の整備 (一部は法定以上)</li> <li>・時差出勤・テレワーク制度の導入</li> <li>・<b>両立支援ハンドブック (育児・介護) の作成</b></li> </ul>
キャリア支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新卒女性社員の配属先拡大</li> <li>・短時間勤務社員の勤務時間柔軟化 (6時間以上も可)</li> </ul>
働き方 (ワークライフバランス・業務効率化)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間外管理の適切化</li> <li>・PCロガーの導入</li> <li>・<b>エンゲージメントサーベイの実施</b></li> </ul>
調査・検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員意識調査</li> <li>・<b>仕事と育児の両立支援に関するワークショップの開催</b></li> </ul>

#### 両立支援ハンドブック (育児編・介護編) の作成

従業員が安心して育児・介護と仕事を両立できる環境づくりの一環として、育児・介護休業取得支援ハンドブックを作成しました。育児編は女性向け・男性向け・管理職向けの3種類、介護編は基本編と施設・費用編の2種類を用意し、制度概要や休業中の経済的支援等を分かりやすくまとめています。ハンドブックは社内イントラで公開するとともに、対象者と上長には印刷物を配布し、制度の理解と活用を促進しています。



両立支援ハンドブック  
育児編 (女性向け)

#### 仕事と育児の両立支援に関する ワークショップの開催

育児休業を取得した社員および育児中の男性社員、短時間勤務制度を利用している社員、そしてその上司を対象に、それぞれの立場に応じたワークショップを開催しました。参加者からは、仕事と育児の両立に関する課題や制度の利用状況、職場内での理解促進に向けた意見等、率直な意見が寄せられました。これらの声をもとに、支援策の検討を行い、多様な人材が活躍できる職場環境の整備を進めていきます。



短時間勤務制度利用者が参加した  
ワークショップの様子

VOICE

#### 理解ある上司や温かい同僚に感謝

育児休業制度を活用して2年ほど休業し、2024年4月に職場復帰しました。休暇の取得前に大きな不安を感じるようなことは特にありませんでした。部署は違うものの、同じ事務所で働く方の中に、既に育休を取得して職場に復帰されている多くの先輩方がおり、さまざまな話を聞くことができたからです。そのため、休暇取得中は特に不安を感じることなく、育児に専念できました。

2年間の休業を経て職場に復帰する時には、さすがに不安も少しありました。子育てや家事と仕事を両立させることが本当に可能なのか、私自身、確信を持たずにいたからです。ただ、こうした不安も、理解のある上司や温かい同僚のおかげですぐに解消されました。今は、短時間勤務制度やテレワークを活用しながら無理なく働けており、職場の方々の配慮に大変感謝しています。



海外物流事業部  
管理部  
鎌形 和貴子

VOICE

ドライバーに対する偏見を覆したい

トラックドライバーはとてもしゃりがいのある仕事です。配達先で感謝の言葉をかけていただくなど、自分自身の仕事が認められ、誰かの役に立っていると実感できたときに、大きな励みになります。会社の資格取得支援制度を活用してタンクローリーのドライバーになり、1年余りが経過しました。ドライバーとしてはまだまだ未熟ですが、配達業務にうまく対応できたとき、それを上司や仲間に褒めてもらえたときには大きな達成感を感じます。

ドライバーという職種には、「労働時間が長い」「協調性や責任感に欠ける」とか「男性の仕事」というイメージがありますが、私自身は、こうした偏見を覆したいと思っています。実際の職場は性別や年齢も関係なく、上司や職場の方々が丁寧に指導してくれます。コミュニケーションもとやすく、それぞれが強い責任感をもって、お互いに助け合うようなサポート体制も確立されています。

早朝からの勤務もありますが、勤務時間が定まっていることからプライベートな時間を確保しやすく、ワークライフバランスも守られています。また、最近では重量物を直接扱わないなど、女性が活躍しやすい職場環境の整備が進んでいます。今後は、車や運転が好き



でトラックドライバーになりたいと思う人が挑戦し、活躍できる職場であることを、多くの人に知ってほしいと思います。

丸運トランスポート東日本  
鹿島支店 鹿島営業所

清水 千華

2024年問題で脚光を浴びるトラックドライバーの1日に密着したヒューマンドキュメンタリー『トラック人生1本道! シーズン2』に出演。

千葉テレビ放送 2025年6月6日放映  
<https://youtu.be/7ZqUsGsVN2g>

人材育成

丸運グループでは「OJT教育」「Off-JT教育」(階層別教育・ビジネススキル教育)による教育を実施するとともに、数年毎のジョブローテーションによりさまざまな業務を経験させることで、多様な人材を育成しています。

教育体系図

	若手層	中堅層	マネージャー層	役員他
階層別	新卒社員研修 明善研修 新卒フォロー研修	ロジカルシンキング研修 問題解決リーダーシップ研修	M3マネジメント研修 考課者研修	新任理事研修 新任取締役研修 役員研修
指名型	リーガル・コストマインド研修		プロジェクトマネジメント研修	理事・M1研修
	OJTマネジメント研修			拠点長マネジメント研修
ビジネス・ヒューマンスキル	業務効率化研修			
	経営分析力研修			
	ビジネス文書力研修			
	ロジカルプレゼンテーション研修			
	物流スキル研修			
	PCスキル研修			
オープン	ビジネススキル研修			
	日経ビジネス研修			
	部門別専門教育			
	ESG			
ESG	内部統制研修			
	人権研修			
	個人情報教育			

エンゲージメントサーベイの実施

丸運では、社員のエンゲージメント向上を目指し、2024年度に初めてエンゲージメントサーベイを実施しました。このサーベイは、社員や組織が抱える本質的な課題を定量的に把握し、職場環境の改善や離職防止に有効な施策の検討を目的としています。

調査の結果、全体としての満足度は62.3%と「良好」な水準であることが確認されました。特に、上司と部下間のコミュニケーションが良好である点は、当社の強みとして評価されています。一方で、「能力の活用」や「変化への対応」に課題を感じている社員が多く、新たな挑戦や変革への意識醸成が求められていることも明らかになりました。

これらの結果を踏まえ、今後は具体的な施策の立案・実行を推進していきます。

「人材会議」の発足

2025年4月に人材戦略の企画・推進を目的とした「人材会議」を発足しました。本会議は、経営陣が主体となり、人材育成、人事制度、後継者計画、ダイバーシティ推進等を主要議題として幅広く議論を行う場です。人的資本経営の考え方にに基づき、人材への投資を通じて魅力的な企業文化の醸成と人材の確保・育成を図ります。社員のキャリア意識の変化にも対応し、経営戦略と連動した人事戦略を、経営陣のリーダーシップのもとで策定・推進していきます。

人権研修

丸運グループでは、人権尊重を推進しており、ビジネスおよび職場の人権に関する個別テーマの理解を深めるため、eラーニングによる研修を継続的に実施しています。2024年度は「SOGIハラスメント防止」をテーマとした研修を実施しました。SOGIハラスメントとは、性的指向 (Sexual Orientation) や性自認 (Gender Identity) に関する差別や嫌がらせを指すものです。研修後のアンケートでは、「ハラスメント防止に対する意識が高まった」「もともと高かった」と回答した社員が合計90%に達し、人権尊重への意識向上が確認されました。引き続き人権に関する個別テーマの研修を継続し、社員の意識醸成に努めていきます。

Social 社会

## 社会貢献活動に関する方針・目標

- 方針** 社会貢献をもっと身近な活動に
- 目標** ● 次世代育成支援につながる活動 ● 地域に密着した活動  
(2024年度)

### 地域社会への貢献

#### 「寄付型自動販売機」の導入

年間を通して日常生活の中で社会貢献を実感できる取り組みとして、丸運グループ内に設置している自動販売機の多くを「寄付型自動販売機」にしています。この寄付型自動販売機は、飲料1本の購入ごとに寄付される仕組みで、丸運グループでは、「公益財団法人交通遺児育英会※1」「日本赤十字※2」等へ寄付しています。

今後も新設されるグループ拠点へ展開を図ります。

※1 公益財団法人交通遺児育英会ホームページ <https://kotsuiji.com/>  
 ※2 日本赤十字社ホームページ <https://www.jrc.or.jp/>



寄付型自動販売機

#### 親子自転車交通安全体験教室への参加

丸運トランスポート東日本京浜営業所は、川崎市幸区で開催された「親子自転車交通安全体験教室」に、タンクローリーを提供しました。参加者には運転席からの視野を体験していただき、死角ができることや、動いているトラックには近づかないことを伝えました。



#### 「パラリンアート」への協賛

パラリンアートは、障がい者アーティストが描いた作品の販売や貸出等を通じて、障がい者の社会参加と経済的自立を推進する活動であり、丸運本社では、通年および社会貢献推進月間にパラリンアートの活動や作品を紹介しています。

また今年度は、作品で作ったラベルを貼付した水のペットボトルを、社会貢献活動で配布しました。



パラリンアート作品で作成したペットボトルラベル

#### 小学生の副教材への協賛

静岡石油輸送は、小学生のキャリア教育を支援する副教材「小学生のためのお仕事ノート」の作成に協賛しました。



#### 能登半島地震で発生した災害廃棄物の輸送

東京貨物ターミナル営業所は、2024年9月より、東京都が受け入れる能登半島地震で発生した災害廃棄物の輸送を実施しています。この活動を通じて、被災地および被災された方々の復旧・復興に少しでも貢献できるよう努めています。



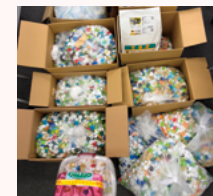
#### 社会貢献推進月間

丸運グループでは、全従業員の社会貢献活動への意識向上および参加促進を目的として、毎年2月を「社会貢献推進月間」としています。2024年度は、以下の活動を通じて社会貢献への理解と関心を深める取り組みを実施しました。

- トップメッセージの発信
- ペットボトルキャップの回収強化キャンペーン
- パラリンアート展示会
- 不要品(文房具・ランドセル)の回収と寄付(寄付先：認定NPO法人グッドライフ)
- 寄付活動の実施(寄付先：認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ)



丸運本社5階に展示したパラリンアートの作品



回収したペットボトルキャップ

#### CLOSEUP 「認定NPO法人グッドライフ」への寄付

丸運グループでは、国内外での不要品リユース活動を推進する認定NPO法人グッドライフを通じて、会社や社員から不要品(文房具やランドセル等)を回収し、寄付しました。この活動は、まだ使用可能な物品を必要としているの方々のもとへ届けることで、資源の有効活用と社会貢献を目指したものです。



回収した主な不要品  
 ・ランドセル14個  
 ・文房具(ペン・ノート・修正テープ他)